



414  
A 804  
3



松秘第十四號

比律賓群島ニ於ケル帝國臣民ノ保護並ニ

軍事視察報告

第三回

明治二十一年七月八日於澎湖島 松島艦長遠藤喜太郎

海軍大臣侯爵西郷從道殿

第一「シエビック」湾ノ航海

本艦六軍艦秋津洲ト交代シ六月二十七日午前六時十二分マニ  
ラ湾ヲ抜錨ス先是在マニラニ等領事三増久米吉ノ  
請求(寫ヲ添エ)アリ本邦人宮川久吉以下ノ所在搜索ノ  
爲メ領事館員三浦荒次郎等ヲ兼組マシメ本艦

吉





シエビック湾ニ航行ス

(月撃シタル事項)

一 馬尼刺湾口「マリベルス」湾ニ獨旗艦「カイゼル」號及「フリセスウエルヘルム」號ノ二艦並ニ獨艦隊用運送船「タルムスタット」號泊シアリ蓋シ「タルムスタット」號ハ獨國ヨリ東洋艦隊ノ交代兵員等ヲ搭載シ来リシモノニシテ同湾ニ於テ兩艦ノ兵員交替ヲ行フモノ、如シ

一 「ゴルレキドル」島付近ニ於テ英艦「ヒケニー」號ノマニラ湾ニ進航スルニ遇フ蓋シ香港方面ヨリ来リシモノ、如シ

一 「マリベルス」湾ノ北方海上ニ於テ獨艦「イレネ」號ノ北方ヨリ来リシ會フ蓋シ後トニテ聞ケハ「リシガエ」號ヲ視察シ馬尼刺エ返航スルモノナリ

同日午後二時四十分「シエビック」湾「ワロンガポー」港ニ投錨シ

本邦人宮川等搜索ノ爲メ本艦士官並ニ三浦領事館員等上陸ス又陸上ヨリ小蒸気船ニテ西國海軍大尉一名訪問士トシテ来艦シ續テ本官モ軍港長ヲ訪問ノ爲メ上陸ス

第二「シエビック」湾「ワロンガポー」ノ景况

- 一 「ワロンガポー」半島ヲ一区域トシテ「アーセナル」ト爲シ障壁ヲ周ラシ其内ニ於テ兵舎二棟病院一棟倉庫一棟新築造船工場二棟鍛冶工場ノ如キモノ二棟及事務所一棟(長官住)「スリップドック」等アリ
- 一 兵舎病院倉庫「スリップドック」事務所鍛冶工場等ハ千八百八十六年ノ建築ナリ
- 一 造船工場ニハ未タ諸器械ノ据付ナシ
- 一 「スリップドック」ニテハ小蒸気船ノ修理位ハ爲シ得ル



ト云フ

一 外輪汽船二百噸位ノモノ小汽艇二隻アリ外輪汽船ハ河流ヲ溯ル用ニ供スル如シ

一 構白障壁ノアラサル所ハ土砂ヲ充タセル「カスク」ヲ並列シ或ハ角材ヲ横置シ電線ヲ縦横ニ張りテ以テ塵埃ノ代リト爲セルヲ見ル

一 アーセナルノ長ハ海軍大佐副長海軍大尉ニシテ其ノ他大尉一名海兵大尉一名陸軍少佐一名醫官一名アリ

一 右海軍大佐ノ去ラ所ニヨシハ湾内各所ニ叛徒起リ「ス」ビック市ノ如キハ既ニ叛徒ノ手ニ収メ唯守ヲ存スル所ハ北地一ヶ所ノミ而シテ叛徒ハ既ニ近傍ニ迫リ居リ襲撃ヲ受クルハ必ス近キニアラシ守備兵ハ海陸

軍食ヲ四百名斗リアルモ内三分ノ一ハ病兵ナリ糧食ハ僅カニ一ヶ月ヲ支フルニ過ギズト云フ

五月三十一日ヨリ「マニラ」トノ音信不通ナリ

「スピック」湾ヲ出テ、西岸ノ小港「シラレギ」及「タリサイ」ニ於テ西國ノ兵員及婦女子五百名斗リ叛徒攻圍ノ内ニアリ八日以前既ニ糧食欠乏ノ報ニ接セリ希クハ貴國軍艦ヲ該地ニ回シ救護シ兵士ズマト請求サレシモ本官ハ我國ハ局外中立ナレバ兵員及武器ヲ採リ得ル男子ニ救助ヲ與フル能ハス然レモ婦女子ニ於テハ男子受ノ魚ヨリ見ルモ救助ヲ與ヘ差支ナレト思考スルモ何分本艦ハ我領事館員モ兼組ミヤリテ明早朝ハ「マニラ」ニ級港スルヲ要シ乍遺憾涕請求ニ應シ難シ然レ「マニラ」ヨリ香



港ニ航スル途中天候ノ許ス限リ該地ニ接近シ視察  
スベシト約ス

### 第三避難者便乗

一 本官ハ同軍港長ト談話中同長ハ傍ラニ坐シアル士  
官ニ何カ命スルヤ同士官ハ直ニ立テ奥ニ入ル暫クシテ  
「ローマシカソリツク」僧侶一名出テ来リ本官ニ向ヒ切ニ  
香港迄便乗ヲ願ヒシモ之ヲ拒絶シタリ然レモ又一  
婦人出テ来リテ一命ヲ助ケル爲メ自分ト子供三人  
ヲ香港迄便乗セシメ呉シト涙ヲ流シテ切願ス軍  
港長モ傍ヨリ瀕リニ懇望ス蓋シ當地ノ情況タル  
實ニ危機切迫ニシテ婦女子ヲ他ニ遁逃セシムヘキ途  
ナク甚ク憫然ノ至リナレハ同婦女子大ケル便乗ヲ  
諾シテ舢舨ス同人ハ海軍海兵大尉ノ妻子ニシテ

午後十一時<sup>頃</sup>乗船ス

本邦人宮川之吉同妻及外二名モ「オロカボ」ニ  
在住シテアリ彼等ノ所望ニヨリ澎湖島迄便乗ヲ  
許ス

一 午後十一時五十分西海軍士官一名乗船ス其日未  
明ニテ聞クニ彼レ曰ク今夜當地ニ於テ士官會議  
ヲ開キ叛徒ノ乘龍襲今明日ヲモ期ス可カラス俄テ  
「オロカボ」ニテ捨テ港口ノ一島ニ引移ル可キヲ決  
セリ願クハ貴艦明日午後迄即チ引キ揚ケテ結  
了スル迄港内ニ在泊セラレンヲ望ム素ヨリ得轉  
ス可キニ付テハ補助ヲ仰ク等貴艦ヲ煩ハスニアラ  
ズ本官答テ曰ク我レハ香港況ニ向ッテ出港シ急遽ニ  
通報ス可キ重要ナル任務アリ来月一日朝迄ニハ



着港セサルヲ得ス遺憾ナカラ貴意ニ應スルヲ  
能ハス蓋し斯ク本官ノ拒絶セシハ若し出艦ヲ延引  
スルハ必ズ種々ノ難題ヲ申込マシ或ハ反徒等ノ感  
情ヲ害スルヲ慮シバナリ又應答ノ間彼レノ語中  
ニモ貴艦着シ在泊セバ叛徒ハ未襲セス其間ニ  
一島ニ引得ヲ結了セシト欲スト云フニアリ  
一 翌二十八日午前二時頃再々同士官乗艦シ然ラハ何  
卒当軍港長ノ妻子及同次長ノ妻ヲ香港ニ避難  
セシメ度便乗ヲ願フト俄テ前同様之ヲ許諾ス  
同婦人等ハ午前二時三十分乗艦ス便乗ノ西人  
ハ軍港長ノ妻及子共三人同次長ノ妻海兵大尉ノ  
妻及子供三人都合九名(松壽第四八号避難者便乗  
報告参照)

但同避難者ハ香港着ノ上ニテ西國領事ニ  
引渡セリ

第四「オロシカポー」港ヨリ香港航海

二十八日午前五時十分「オロシカポー」按鑑同正午馬尼  
刺湾着秋津洲ノ小蒸気艇ニ領事館員等ヲ得シ  
直々ニ香港工向ケ航行ス湾内「コレキドル」島付近ニ於  
テ獨旗艦「カイセル」號ノ「マニラ」ニ進航スルニ會ス  
七月一日午前十一時五十分香港ニ着シ第三浮標ニ  
錨留ス



記

・長崎縣南高島郡島原村八百五十三番戸平民

大工職

宮川久吉

同人妻

子ト

同長男

兼吉

・熊本縣葦北郡四浦村八百五十八番戸平民

大工職

小川勝太郎

前記四名ノ者西國人某ノ家屋建築受員トシテ本年三月末頃ヨリ當國パシガシ州スビツク湾内オロシガホー工罷越候處今回ノ戦乱ニ付通信全ク吐絶シ其安否高宅モ不相分同地方ハ凡テ土匪蜂起ノ線内ニ付此際何等異状無之モ難計候ニ付同人等事情探知ノ爲ノ貴艦同湾内工回航相成本人等住跡



一應涉取糺之上其希望ニ由テ六当地返送還ノ義可  
然取計有之候様故度此段及涉照會候也  
明治二年六月二十六日

在マニラ

二等領事 三増久米吉印

松島艦長遠藤喜太郎殿

進テ本文スヒク湾へ入航ノ義ハ本日当地總督ノ  
一應及照會候處右ハ差支無之旨回答ニ付為  
念此段申添候也